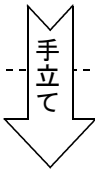


中学校 書くこと分科会

<p>中学校 書くこと</p>	<p>【実践課題】 「言語活動の中で学び合いの手立てを工夫し重ねることで、実生活に生きる書く力を獲得する授業」</p> <p>■分科会の願い：「書く」ことを通して、自分と正面から向き合い、考えを深める生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の中にあるものと向き合えず、外からの受け売りで自分を表現し、なんとなく生きている生徒がいる。その繰り返し、本来の自分と外に表現している自分を乖離させ、生きづらさを生む。文章は「言いたいこと」があって成立する。「本当の言いたいことは」は自分の中にあり、自分に正面から、深いところで向き合うことで、掘りおこされ発見される。生徒がより良く生きていけるために、深いところで自分と向き合い、思考が深まる「書くこと」の授業をつくっていききたい。 <p>■「互恵的な学び合い」をつくる</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒自らが学び合いに参加するためには、生徒自身が学び合うことの価値を自覚することが重要になる。全ての生徒が自分の考えを伝え、他者の考えを聞くことで、新たな発見をすることができる学び合いにする必要がある。そのような学び合いが成立することで、生徒は一人では到達できないところまで思考を深めることができる。一方的なアドバイスに留まる学び合いではなく、全ての生徒にとって価値のある互恵的な学び合いのあり方を求めていきたい。 <p>☆研究の視点①</p> <p>：「書くこと」における互恵的な学び合いを成立させる手立ての工夫。</p> <ul style="list-style-type: none">・どのように「発信・受信」させれば、互いの作文の改善につながったり、互いの考えを深めたり、広げたりさせることができるのか。・「学び合い」の中で、自分とは違う観点を見つけたり、今までとは違う観点をも自分の中に見つけさせるためには、どのような工夫が必要か。 <p>☆研究の視点②：「学び合い」が活性化し、指導目標が達成される「学習課題」の追求</p> <ul style="list-style-type: none">・互恵的な学び合いが成立し、そこに価値を感じられる学習課題の追求。 <p>☆研究の視点③：「学び合い」を通じた思考の深まりをどのように評価するのか。</p> <p>■実生活と結びつける</p> <p>☆研究の視点④：実生活に生きる書く力とは何か。</p> <p>■研究の方向</p> <ul style="list-style-type: none">・「課題設定や取材」・「構成」・「記述」・「推敲」・「交流」といった学習過程に応じた、互恵的な学び合いのあり方を、授業実践を通して追究する。
---------------------	--

授業者	札幌市前田北中学校 新井拓
授業案	<p>I 単元・題材 「説得力のある考えを述べようー批評文を書く」(光村3年)</p> <p>II 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書く。 (3年「書くこと」指導事項イ) ・互いの批評文を読み合い、ものの見方を深める。 (3年「書くこと」指導事項オ) <p>III 言語活動「批評文を書く」</p> <p>IV 指導計画</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教科書『「批評」の言葉を高める』を読み、批評の意義を理解する。 ②学習の見通しを持つ。 ③関心のある事柄を選ぶ。 ④分析をするために観点を考える。 ⑤情報を集め、整理する。 ⑥批評文を書く。 ⑦批評文を読み合い。ものの見方を深める。(本時) ⑧学習を通して考えたことを振り返る。

提言者	札幌市立清田中学校 富岡亜希子
提言案	<p>提言の構想案</p> <p>■ 例「意見文：2年指導事項ア、イ」における「互恵的な学び合い」の手立て</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【学び合いの中で】</p> <p>○与えられたテーマから論点を発見させる。 (教科書では既に論点が与えられているが、実践ではテーマのみを与えたい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマへの共感、反発、発見、疑問を論点の芽とする。 ・大きな疑問→小さな疑問→できるだけ、自分としての切実な問いにする <p>○自分の立場を発見させる＝読み手の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み手の立場から見た自分 <p>○意見を自分の中から発見させる。⇒「<u>問い</u>」を発見する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分に対する問いで意見を引き出す。・問いのエリアを拡げていく。 <p>○根拠を発見させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の体験、見聞を洗い出す。 ・必要な知識を得る。 ・具体例を探す。 ・別の立場から考える。 </div> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;">  </div>

	<p>【手立て】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>指導事項ア、イにおける手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆同じ論点を持つものを集めて班にする。 ☆各班から同じ分担するものが集まり学習会を開く。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>題材を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆班で協力して「～文」を完成させる。 ☆完成した文を他クラスで評価する ☆練習の場と位置づけ、後に類似課題で評価テストを行う。 </div> <p>■意見文における「実生活に生きる書く力」とはどのようなことか？</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>意見文を書く中で、社会との関係性の中で自分の立場を見つけられることが、 実社会に生きる力になるのではないだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○扱った論点について、社会がどう思うのか。 ○自分と社会がどう関わるのか。 </div> <p>■予定している実践授業（指導事項ア、イの実践の場合）</p> <p>I 単元・題材 「立場と根拠を明確にして書こうー意見文を書く」（光村2年）</p> <p>II 目標 ・社会生活の中から課題を決め、材料を集めて、自分の考えをまとめる。 ・自分の立場を明確にして、文章の構成を工夫する。</p>
--	---

富山先生への質問

	<p>■実生活に生きる書く力について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞文、意見文などが書けるようになる力が実生活に生きる書く力とは、とらえませんでした。提言構想案で示した方向性でよろしいのでしょうか。 <p>■指導事項3年アについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「取材を繰り返す」において、学校内での具体的な方法、対象は何が考えられますか。 <p>■「考えを深める」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・批評文を書くときに、課題設定や取材の段階で、様々な文章を読んで「考えを深める」のは「読むこと」ではなくて「書くこと」の指導事項と考えてよいのか。また、批評文を交流するときに、互いの文章を読み合っ「考えを深める」ことは、「読むこと」ではなくて、「書くこと」の指導事項と考えてよいのか。
--	--